
latte 2

嘘つき桃頭巾

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

l a t t e 2

【Nコード】

N 3 6 4 4 P

【作者名】

嘘つき桃頭巾

【あらすじ】

『l a t t e』の続編です。『l a t t e』では読めなかった、憂と悠人のその後の様子を描いてみました。

(前書き)

この小説を読む時は、『late』を読んでからお読み下さい!!
じゃないと、話が分かりづらいと思うので…。

カランカラン♪

ここは、小さな小さなカフェ、『Late』。狭い店内に、ドアに付いているベルが鳴る。私、哀澤憂は、ここでバイトをしている。

「悠人君?…また勉強してるの?」

「うん。…って、憂ちゃん?」

悠人君が顔を上げてそう言った。彼は、飯田悠人君。他校だけど、私と同じ、高2。そして…私の、彼氏。

「今日バイト休みだったから…。友達とショッピング行ってたの。」

3

「へえ。そうだったんだ。どうりで勉強が捗らないはずだ。」

「……（赤面）ちよつと…本気じゃないのに言わないでよ……」

「本当だよ?（笑）憂ちゃん照れ屋だね」（笑）」

地味で根暗な私と、爽やかで明るい悠人君。はっきり言ってつり合わない。

だけど、私と悠人君はカレカノ同士。……いつから? ――昨日から。昨日、悠人君が告白してくれた。こんな私に。信じられないけど、信じてほしい。

だけど、私と悠人君はまだ関係が浅い。そもそも一番深く関わっ

たのが、あの日だ。（『あの日』の事については、『late』を読んでね）たったそれだけ。何も…何も、私は悠人君を知らない。

「…そ、そうだ。悠人君って、さ…。いつも何の勉強してるの？いつもここで勉強してるけど…。」

「ああ、何の勉強してるかって事？大した事はしてないけど…。知りたいの？」

「うん…！」

私は迷わず頷いた。だって、悠人君の事、知りたい。何でも良いから。その一心で、しっかり頷いた。

「親には秘密にしてきたんだけど…。彼女だしな。じゃ、教えてあげるよ。」

「やったあ…！」

「俺が今勉強してんのは、医学…なんだ。」

「医学…。」

「そ。俺、大学では医学部に入りたいんだ。親には内緒だけどな。そんで、医者になりたい。」

「夢が…医者、なんだ…。」

「笑うなよ？友達には『夢見過ぎww』って笑われたけど、俺、一応本気だし。」

「笑う訳、ないじゃん…。夢があるって、凄く素敵なお事なんだよ。それを笑う人に、夢を見る価値なんて無いんだから。」

「憂ちゃん…?」

「私は、素敵だと思うよ。それに向かって頑張っているってカッコいいと思うし…。」

素直にそう思った。夢を見て、夢に向かって頑張って…。私が知らない悠人君を見た気がした。

「何か照れくさいけど…サンキュ。そうだ、憂ちゃんは夢あるの?」

「私の夢…?」

私の夢…。今までは一応、自分でカフェを開きたいな、と思っていた。でも、見つかったんだ。本当の『夢』が…。

「私の夢はね、一応自分で日カフェを開きたいな、と思ってるの。だけど、もう一つ、それ以上に叶えたい夢が見つかった。」

「へえ。その夢って何?」

「私のもう一つの夢はね…悠人君と結婚する事…!!」

113年後

ウェディングマーチが流れる神聖なる教会。そう、私達、ついに

結婚する事になりました！！まだ大学生だけど、愛に学生結婚なんて関係ない。

「新婦、哀澤憂。貴女は、新郎の飯田悠人に尽くす事を誓いますか？」

「誓います。」

「新郎、飯田悠人。貴方は、新婦の哀澤憂を幸せにする事を誓いますか？」

「誓います。」

「では、誓いのキスを…。」

悠人は緊張している私に微笑んで、そっと口づけをした。ワッと、歓声上がる。

私は、小声で囁いた。

「悠人…？私の夢叶えさせてくれて有り難う…。」

「次は…お前が俺の夢の為の支えになれよ…？」

そして、もう一度、口づけをした。

その口づけは、優しくて甘い、まるでl a t t e のようだった。

（後書き）

最後まで読んでいただき有り難うございます！！
是非、感想、コメント等くださると嬉しいですよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3644p/>

latte 2

2010年12月7日23時40分発行